

様式第2号

視察研修先	栃木県大田原市	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	旧蜂巢小学校の利活用について(多機能型障害福祉サービス事業所)		
【視察先概要】 大田原市は栃木県の北東部に位置し、東京や仙台から新幹線で約80分の距離。那珂川、箒川、蛇尾川の3つの川に囲まれた、那須野が原の扇状地と八溝山系の山並みが連なる。平坦な土地が多いことから水田も広がり、米の収穫量、産出額が関東一多い。人口約6万7千人のまち。平成17年に大田原市、湯津上村、黒羽町の3市町村が合併し現在に至る。 【視察内容】 人口減少や市町村合併などにより小中学校が廃校となるなか、大田原市では、市有財産のうち、民間活力による効果的な活用が期待されるものを対象に民間事業所から利活用提案を募集する「大田原市有財産活用民間提案制度」を使い廃校の利活用を行っている。この度はその内の1つ「旧蜂巢小学校」を視察。社会福祉法人が多機能型障害福祉サービス事業所として利用している。 【感想・所見】 廃校になった蜂巢小学校を公募型プロポーザルにより利用者を公募。現社会福祉法人が利用者と決まり、どのような使い方をするか地元説明会を開催したとのこと。田園風景が広がる場所と趣のある平屋の木造校舎にひかれ、障害者の学びの場となるカフェをオープンした。廃校を利活用する時に気をつけたことは「地域資源と地域の拠点として大切にしたいとの考え」とのこと。廃校になってしまった校舎でもその場所に通った卒業生にとっては思い出のある大切な場所である。その人達の思いを大切にするため、なるべく元の姿で残せる部分は残している。体育館や教室の一部は地域の方々も借りることが出来るようになっていて、同窓会の会場としてカフェを利用されている点はとても良いことだと感じた。視察日も多くのお客様がカフェを利用し大変な賑わいがあり素晴らしいことだと感じた。社会福祉法人が運営していることもあり同業の方の視察や民生員の方々がこぞって視察にいらしているとのことで、この取組への関心の高さが伺えた。 お話を聞く中で廃校の利活用には多くの課題もあるとわかった。大田原市では全部で12校廃校になったとの事だが、全てが上手く利活用できている訳ではないとのこと。学校を別の用途で使う場合、法律の面でクリアしなければならない課題もあるし、建物の維持管理、建物の構造により使いにくい物もあるとのこと。廃校になったら勿体ないから利活用していくべきだと思っていたが、維持管理のコストなどを考えると必ず利活用すべきかどうかは考える必要があると教えられたのが一番印象に残る。			

様式第2号

視察研修先	栃木県那須町	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	旧朝日小学校の利活用について(那須まちづくり広場)		
【視察先概要】 那須町は栃木県の北部に位置し、東京と仙台のほぼ中間地点。雄大な那須連山をはじめとした四季折々の自然の美しさと那須高原や温泉、テーマパークなどがある観光と農業のまち。那須御用邸があることでも有名。人口約2万3千人。 【視察内容】 大田原市同様、廃校の利活用について学んだ。那須まちづくり広場では高齢者住宅を中心とした少子高齢化の新しい拠点として多様な人達が暮らし合う「まち」をつかった。廃校を民間事業者の利活用とした経緯について伺った後、那須町総務産業常任委員会の方々との意見交換会も行った。 【感想・所見】 那須町でも廃校の利活用に関しては那須町小中学校適正配置計画において「有効活用を検討していくものとする」とされていたことから那須町学校跡地検討委員会を設置し検討を開始したとのこと。 那須町での利活用の優先順位は ① 学校施設又は教育施設として利用(改修等の必要性が低いことから優先的に検討) ② 公共施設としての利用(公共施設又は公益的施設として検討) ③ NPO法人や民間企業への貸し付け(雇用創出や地場産業等の振興に資する物を優先的に検討) ④ 解体及び売却 とされていて、旧朝日小学校は学校等の利活用がなかったため民間への貸付となった。大田原市でもお話を伺ったが廃校の利活用する場合、建物全てを借りてくれる事業所だと良いのだが、一部だけの利用では行政側の負担が大きくなり難しい側面もある。 本市の小学校は全て鉄筋コンクリート造で2階～4階建てのため全部を借りてくれる事業所が見つかるかどうか、見つかったとしても長く利用してもらえるように選定は慎重にしなければならないと感じた。 視察内容説明の後は町議会議員の皆様と意見交換会を行わせていただき、お互いの街の現状や事業内容に関して有意義な意見交換をすることが出来た。インターネットで色々な情報が取得出来る世の中だが、出てきている情報は最後の完成された部分のみで、途中のプロセスが無い。プロセスの部分にこそ大事な情報があるのではないかと感じたし、生の声を聞いてみないと分からないことが沢山あると改めて感じた。			

様式第2号

視察研修先	宮城県白石市	氏名	野口 康一郎
視察研修項目	学びの多様化学校(白石きぼう学園)について		
【視察先概要】 白石市は蔵王連峰のふもとにあり、仙台市と福島市のほぼ中間地点に位置する宮城県南部のまち。白石城の城下町として栄え、こけしや「白石うーめん」が有名な人口約3万人のまち。 【視察内容】 不登校の児童・生徒が全国的に増加傾向にあるなか、全ての児童生徒に学びの場の選択肢として開校した、全国に4校しかない、公立での小中一貫校の学びの多様化学校(白石きぼう学園)を視察見学させていただいた。 【感想・所見】 平成28年に成立した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」にある不登校特例校の整備等が国や地方公共団体の努力義務になったことを受けて、不登校児童生徒の居場所づくりと学びの場として令和5年4月に閉校していた校舎を使い「白石きぼう学園」が開校されたとの事。説明を伺って始めに驚いたのは申請から開校までの準備期間が約1年しかなかったことだ。関係各所とのやりとりや関わっていた方々の苦労は相当なものがあったと思うが、子どもたちのことを考え、スピーディに開校できたことは素晴らしいと感じた。不登校という、いじめ等で学校に行きづらくなった子たちだとばかり思っていたが、不登校になる原因は人間関係や学習面など様々あり、誰にでも起こりうることだと認識させられた。 子どもたちも不登校になりたくてなっている訳ではないと思うので、自分のペースで自分なりに自分らしくいることのできる場所があるという事は大切な事なのだと改めて感じた。この学校のことを聞いて、市外県外からも移住して通う生徒さんもあるとのこと。保護者の立場として子どもが学校に行きたくないと家に籠もるようになれば、小さい時だと特に、仕事も出来ない、出かけることもできない状態になるとのことだが、子どもが学校に行くようになることで自分の仕事が出来るようになったりと親のできることが増えると聞いて、特例校があることが親の希望となり救われる方がいらっしやると思うとこれからの時代、大事になってくる施設になると感じた。 この度の視察では白石市教育長の半沢様から開校から現在に至るまでの説明を熱い想いで伺うことができた。誰一人取り残さない教育の実現のためにご尽力された熱意に敬意を表する。物事を動かすにはやはり「熱い想い」を持った方がどれだけいるかが重要なのだと改めて感じた。この学園に通うことで自信を取り戻し、元の学校に転校する生徒もいると聞いて驚いた。			